

## [成果情報名] 農福連携支援者の支援活動の実態と課題

[要約] 農福連携支援者が行う支援活動は「直接指導」「ネットワーク構築」「就労環境整備」「仲介」の4つである。支援活動の際の課題はこれら支援活動の取組状況によって異なるため、行政は支援者の活動状況に応じた対応が必要である。

[キーワード] 障がい者、就労支援、農業就労、農業ジョブトレーナー

[担当] 三重県農業研究所 地域連携研究課

[分類] 研究

---

## [背景・ねらい]

農福連携の推進に向けて、農業と福祉双方の知見を持ち助言や相談等を行う人材の育成研修が実施されているが、研修受講者の活動実態は把握できておらず、研修の改善の必要性も不明である。そこで本研究では、農業ジョブトレーナー養成講座修了者に対して質問紙調査を行い、養成講座修了者の支援活動の実態を把握する。更に、そうした支援活動の実態と、支援者の職業や支援活動目的、支援活動の際の課題との関連を明らかにする。

## [成果の内容・特徴]

1. 障害福祉サービス事業所職員、農業者、公務員等、農業ジョブトレーナー養成講座修了者 295 名に郵送調査を実施した。回収率は 52.5% で、うち支援行動の評価項目、職業、活動上の課題全てに回答のあった 127 名のデータを用いて分析した。
2. 支援行動に関する質問 28 項目に対し主因子法、プロマックス回転により分析を行った結果、26 項目からなる 4 因子構造となった（表省略）。4 つの因子はそれぞれ、「直接指導」「ネットワーク構築」「就労環境整備」「仲介」とした。
3. 因子得点の平均値を職業別に見ると、「直接指導」と「就労環境整備」が障害福祉サービス等事業所職員と農業者で高く、公務員とその他職業で低い（表 1）。4 つの支援活動のうち、これら 2 つの支援活動は農業ジョブトレーナーとして期待される支援活動に該当する。すなわち、農業分野における障がい者支援活動のうち、農業ジョブトレーナーとしての役割は、主に障害福祉サービス事業所職員と農業者が担っていると考えられる。
4. 支援者は 4 つのタイプに類型化できた（図 1）。【組織内完結型】は就労現場での支援機会は多少あるものの、他組織の関係者や支援者との関わりは少なく、支援対象の組織内で活動が完結している。【間接支援型】は障がい者に直接接するよりも間接的支援を行う機会が多い。【無活動型】はどの活動もほとんど行っていない。【多活動型】はすべての活動をよく行っている。
5. 支援活動の際の課題として最も多く挙げられた「農業の知識・経験が少ない」、次に多かった「仕事が忙しく時間が取れない」は 4 つのタイプの共通の課題である（表 2）。一方、「活動に報酬が出ない」は多活動型が多い。このタイプの支援者は自組織における支援活動だけでなく、他の農業経営体や障害福祉サービス等事業所を対象とした支援、関係者との連携活動にも携わっているため、金銭的負担感が大きいと考えられる。多活動型の支援者が長期間に渡り取り組みを続けることができるよう、報酬の検討が必要と考えられる。また、農業の知識・経験習得の場はどのタイプにも必要であるが、特に無活動型の支援者については、農業と障がいの両方の知識・経験がないため、例えば農林水産省の農福連携技術支援者研修を活用する等、農業や障がいに対する知識習得や障がい者の農業就労支援を経験する場をさらに提供する必要があると考えられる。

## [成果の活用面・留意点]

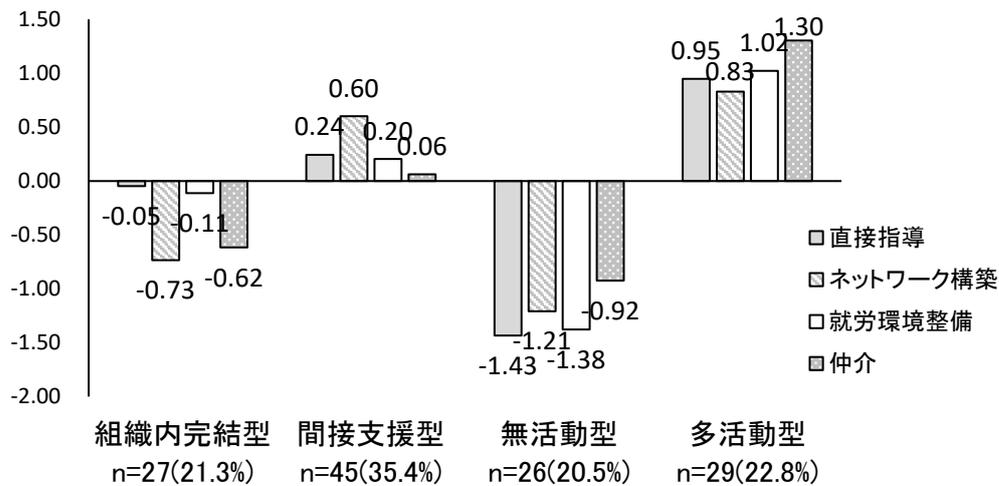
当成果は農福連携を推進する行政担当者が、支援者育成の施策を立案する際に参考となる。

表1 職業別因子得点の平均、SD

職業	n	直接指導		ネットワーク構築		就労環境整備		仲介	
		因子	SD	因子	SD	因子	SD	因子	SD
事業所職員	65	0.457 ± 0.75		0.089 ± 0.87		0.293 ± 0.89		0.017 ± 0.89	
農業者	13	0.267 ± 0.99	*)	0.106 ± 1.04		0.287 ± 0.96	*)	0.181 ± 1.10	
公務員	20	-0.609 ± 0.89	*)	-0.026 ± 1.04		-0.376 ± 0.92	*)	0.171 ± 1.02	
その他	29	-0.724 ± 0.90	*)	-0.228 ± 1.06		-0.525 ± 0.96	*)	-0.236 ± 0.97	
F値		17.815 ***		.784		6.912 ***		.976	

注:1)抽出された各因子の因子得点を回帰法により算出し、回答者の属性による因子得点の差を一元配置の分散分析を行い、多重比較をBonferroni法にて実施した。

2)\*P<0.05, \*\*P<0.01, \*\*\*P<0.001



注:階層化クラスター分析 (ward 法)

図1 クラスター分析による支援者の類型化

表2 支援活動の際の課題

	n(%)				
	組織内完結型	間接支援型	無活動型	多活動型	全体
	27	45	26	29	127
報酬***	3 (11.1)	4 (8.9)	2 (7.7)	13 (44.8)	22 (17.3)
時間	10 (37.0)	20 (44.4)	9 (34.6)	12 (41.4)	51 (40.2)
農業知識・経験	15 (55.6)	24 (53.3)	12 (46.2)	9 (31.0)	60 (47.2)
障がい知識・経験**	3 (11.1)	9 (20.0)	12 (46.2)	3 (10.3)	27 (21.3)

注:1)人数は、支援者が課題として選択した項目をすべてカウントした(複数回答)。

注:2)Fisherの正確確率検定。

注:3)\*\*P<0.01,\*\*\*P<0.001

(飯場聡子)

[その他]

研究課題名：農業における障がい者雇用創出に向けた経営モデル等の作成

予算区分：執行委任（国費）

研究期間：2021年度

研究担当者：飯場聡子

発表論文等：農林業問題研究 58(3), 2022